

教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 社会福祉学科

資格： 助教（臨床）

氏名： 浅井 鈴子

研究分野	研究内容のキーワード
児童家庭福祉分野	児童福祉、家庭福祉、児童虐待
学位	最終学歴
修士（臨床教育学）	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科臨床教育学研究

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 児童虐待防止医療ネットワーク事業コーディネーター	2018年4月1日2023年3月31日	県内の医療機関に対して、児童虐待対応の相談助言を行う。また、日本子ども虐待医学会が作成した医療機関向け虐待対応プログラム（BEAMS 1）研修を行うことで、病気・怪我の背景にも目を向けるようになった。また、医療機関からの電話相談や出張相談、講演会を実施し、児童虐待（疑い含む）は稀なものではないということを認識し予防支援の視点も持つてもらおうよう促した。
2. 日々の業務の中で医療従事者へ実践指導	2016年4月1日2023年3月31日	被虐待児対応の注意点や事実確認の方法また関係機関連携について、医療現場ではまだまだ周知徹底されていないため、事案対応ごとに医療従事者に指導助言を行う。
2 作成した教科書、教材		
1. 統括支援員基礎研究（オンデマンド研修）	2024年7月～現在	こども家庭庁の補助事業「令和5年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、統括支援員の育成に関する調査研究事業の一環として制作する「統括支援員の育成に関する研修教材」の中の『専門性⑤ 関係機関との連携（マクロレベルのマネジメント）社会関係機関との連携の基盤支援対象家庭を中心とした関係機関との連携の概要』に参加する。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 精神保健福祉士	2021年4月5日	P23-2906号
2. 社会福祉実習指導者	2021年3月14日	
3. BEAMS講師認定	2020年	
4. 社会福祉士	2014年4月11日	第166895号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 兵庫県児童虐待防止医療ネットワーク事業・児童福祉勉強会 講師	2024年4月24日	『2024年4月から設置される「こども家庭センター」について～子どもを中心とした支援をめざすために～』BEAMSのStage 1 にさらに関係機関連携や通告などを加えて講演を行う。
2. 鹿児島市立病院 BEAMS Stage 1 + α 講師	2023年10月28日	
3. 尼崎市消防局 令和5年度救急特別研修会 講師	2023年9月25日	
4. 兵庫県児童虐待防止医療ネットワーク事業・児童福祉勉強会 講師	2023年8月30日	『あれっ？と思った時あなたは何をしますか？～関係機関連携を視野に入れた救急現場での対応について～』消防隊員へ虐待対応の重要性について講演を行う。
5. 益田赤十字病院 BEAMS Stage 1 講師	2023年7月19日	
6. 加東市児童虐待対応研修 講師	2023年3月23日	『児童虐待対応を行う子ども家庭支援者の専門性とは？～ソーシャルワークの視点について事例を通して考えよう』
7. 明和病院 BEAMS Stage 1 講師	2023年3月10日	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
8. 洛和会音羽病院 BEAMS Stage 1 講師	2023年2月3日	『Child Fiestな社会にするために 家庭・学校・関係機関そして社会は何ができるのか』 市内の小・中・高の生徒指導を行っている教員向けの研修会。
9. 赤穂市民病院BEAMS Stage 1 講師	2023年2月3日	
10. 尼崎市生徒指導推進協議会 講師	2023年1月23日	
11. 兵庫県児童虐待防止医療ネットワーク事業・児童福祉勉強会 講師	2022年10月26日	『虐待に至ってしまった親の気持ちを考えてみませんか？』 医療・司法・福祉・保健・教育それぞれの専門職が、虐待対応を行っている。そこで事例も交えて講演を行う。
12. 西宮中央病院 FaST研修会 講師	2022年10月24日	児童虐待専門コーディネーターとして研修会を実施した。
13. 兵庫医大病院CPT研修会 講師	2022年7月30日	『児童虐待対応の仕組み～関係機関の役割を知ろう！！』 児童虐待対応コーディネーターとして、事例を用いながら院内連携から通告までの流れを伝える。
14. 市区町村子ども家庭支援指導者研修 コーディネーター	2022年7月29日	『要保護児童対策地域協議会を活かした多機関協働による子ども家庭支援と児童虐待予防』をテーマに4名の方々実践報告を行う。
15. 岡山済生会総合病院CPT研修会 講師	2022年7月8日	『医療機関が行う児童虐待対応～子ども家庭支援の視点から考える～』 児童虐待対応コーディネーターとして、CPTや医療現場における虐待の気づきなど事例を通して講演を行う。
16. 尼崎市児童相談所準備室研修会 講師	2022年5月2日	『医療機関が行う児童虐待対応 ～児童相談所と医療機関の連携を通して～』
17. 西宮市立中央病院 院内研修会 講師	2022年1月27日	『病院で虐待を発見してから～発見・通告・告知の流れ～』 児童虐待専門コーディネーターとして、兵庫県内の医療機関に虐待対応の研修会を実施。その一環としてCPTが立ち上がり院内連携を実施するための研修会を行った。
18. 兵庫県児童虐待防止医療ネットワーク事業・児童福祉勉強会 講師	2021年11月24日	『あなたの怒り』『私の怒り』怒りについて考える』 虐待対応を行う中で関係機関間で怒りがぶつかり合うことがある。怒りの裏側になるものは何か。虐待対応を実践する専門職がまず自分の怒りについて理解する。
19. 兵庫県児童虐待防止医療ネットワーク事業・児童福祉勉強会 講師	2020年10月28日	『医療機関での被虐待児とその保護者への支援～関係機関連携を通して考える～』 事例を提示しながら研修会を実施する。
20. 市区町村子ども家庭支援指導者研修 実践報告	2020年2月4日	『特定妊婦への支援～多機関連携を行ううえで医療機関ができること～』
21. 尼崎市園田地区補導委員会 講師	2019年9月20日	『不登校の子どもたちの裏側に～子どもたちが抱えている問題に私たち大人は何ができるのか～』
22. 尼崎市中学校生徒指導研究協議会 講師	2019年9月5日	『MY TREE ジュニア ～くすのき・さくらプログラムについて～』
23. 兵庫県児童虐待防止医療ネットワーク事業・児童福祉勉強会 講師	2019年8月28日	『病院で虐待を発見してから～発見・通告・告知の流れ～』 医療機関で被虐待児を発見した場合に、市町村・児童相談所への通告するまでの手順や、警察署への通報の手順について事例を通して、また参加者からも経験を話してもらい意見交換を行いながら研修会を行った。
24. 尼崎市小・中学校生徒指導担当研修会 講師	2018年10月5日	『どうやって子どもたちを守る？！～関係機関の役割について～』 中学校は生徒指導担当は専従である場合が多いが、小学校ではまだまだ担任と兼務の状態、生徒指導として業務をはたくことが難しい現状である。そのようななかで学校で被虐待児を発見した時にどのように対応するのかについて、いくつかの事例をもとに研修会を

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
25. 兵庫県児童虐待防止医療ネットワーク事業・児童福祉勉強会 講師	2018年8月29日	行った。 『病院で虐待の対応？！～尼崎総合医療センターのCPTについて～』 この会には、県内の医療機関・検察庁・警察・児童相談所・市町村そのた。他児童に関する施設などが参加していたため、病院にCPT（Child Protection Team）がどのように組織され業務がおこなわれているのかについて説明を行った。
26. 沖縄県うるま市社会福祉協議会研修会 講師	2017年7月7日	『児童虐待の早期発見の取り組みについて～尼崎市の取り組みと関係機関連携～』 沖縄県内の児童相談所や医療機関のMSWや市町村の児童相談員、そしてうるま市の民生・児童委員の方が参加。その方々に尼崎市の総合支援拠点について、そして児童虐待対応を行う際の関係機関連携と通告について講演と意見交換を行う。
27. 尼崎市子ども・青少年問題庁内勉強会 講師	2017年7月5日	尼崎市が児童福祉分野で新体制を検討していくなかで、人事異動で福祉業務の経験がない職員も多いため、異業種（福祉・教育・一般行政）が集まり、関係機関連携について講演後、意見交換を行った。
28. 兵庫県阪神・丹波ブロック家庭相談員研修会 講師	2016年9月16日	『虐待かな？思った時は…』 虐待の中でも身体的虐待の記録の残し方や、ネグレクトによる乳幼児の体重増加不良の記録の残し方、また状況確認の聴き取りの仕方について講演した。
29. 尼崎市立塚口中学校教職員向け研修会 講師	2016年8月23日	『虐待について～子どもたちをどのように見守っていくのか～』 学校現場では、まだまだ虐待対応について苦手意識があり、また通告や関係機関連携についても抵抗がある現状であった。しかし、子どもたちを守ることが出来るのは大人である。その中でも子どもが一日のうちで大半を過ごす学校にいる教職員は、子どもにとって安心安全な場所にいる大人であるため、その大人がどのように子どもを見守るのかについて講演を行った。
30. 尼崎市立浜田小学校教職員研修会 講師	2014年8月29日	『虐待を記録する～子どもにとって何が「幸せ」なのか。虐待から子どもを守る手段』
31. 尼崎市教育委員会人権研修 講師	2014年8月27日	『虐待を記録する～子どもにとって何が「幸せ」なのか。虐待から子どもを守る手段』
32. 大阪府社会福祉協議会研修会 講師	2010年9月13日	『家庭児童相談室を通して見える現在の子どもの貧困問題について』 実践を通して、社会問題として貧困問題について実践報告を行う。
33. 加東市児童虐待対応研修 講師		『虐待かな？と思ったら…あなたはどうしますか？』 多機関多職種での研修会であったため、発見から関係機関連携までの一連の流れをグループワークを行いながら参加型の研修会を実施する。
4 その他		
1. 大阪成蹊短期大学 講師	2022年4月1日2023年3月31日	「子ども家庭支援論」と「子ども家庭福祉」の講師を行う。
2. 武庫川女子大学心理・社会福祉学科「医療福祉専門職を学ぶ会」ゲストスピーカー	2020年11月19日	『尼崎総合医療センターでの私の役割』 医療福祉専門職を目指す学生に、まずMSWの一般的業務の説明を行い、その後虐待専従MSWの役割について説明する。その後は、学生からの質問に1つずつ対応を行った。
3. 司法面接研修終了	2017年9月18日	
4. 虐待被害児診察技法研修終了	2016年6月18日	
5. 京都聖母学院短期大学児童教育学科実習前研修会 講師	2015年5月28日	『なぜ虐待はおきるの？』をテーマに、児童福祉施設で実習を行う学生向けに、児童虐待の現状と逆多発が起きるメカニズムについて講演を行う。
研究業績等に関する事項		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 家庭児童相談室の専門性に関する研究ー2000年の『児童虐待防止法』施行後の歴史の変遷を踏まえてー	単	2020年3月20日	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科修士学位論文	修士学位論文 主査：倉石哲也教授 2000年の『児童虐待防止法』施行後の歴史の変遷を踏まえて、家庭児童相談室の課題と展望を検討した。
3 学術論文				
1. 家庭児童相談室の専門性に関する研究ー2000年の『児童虐待防止法』施行後の歴史の変遷を踏まえてー	共	2021年7月	『臨床教育学研究』武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科紀要第27号	浅井鈴子・倉石哲也 2000年の『児童虐待防止法』施行後の歴史の変遷を踏まえて、家庭児童相談室の課題と展望を検討した。
2. 学校におけるトラウマインフォームドケアの実践（第Ⅱ報）	共	2020年3月31日	『学校危機とメンタルケア』第12巻、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	大岡由佳・岩切昌宏・瀧野揚三・浅井鈴子・毎原敏郎・木村有里 学校における児童生徒の対応の中でも性被害・性加害について、対応に苦慮している。筆者らは、X市において、児童生徒の性被害・性加害における教職員の対応についての調査を実施し、あわせてトラウマインフォームドケア（Trauma Informed Care：TIC）を踏まえた性被害・性加害の研修を行った。研修前後で、性被害・性加害の子どもや保護者への対応ができる効力感が1.5倍から2.4倍に増し、トラウマについての認識（トラウマの経験率/種類/脳・身体への反応/影響）も有意に向上した。TIC実践を行うための研修は、パイオ・サイコ・ソーシャルな多面的な視点からトラウマに関連する内容を盛り込むことに意味があったと考えられた。また、TICの視点を教職員が有するkとが、被害・加害を超えて、それぞれの子どもと向き合える可能性の課題につながっていた。33～44頁
3. 学校におけるトラウマインフォームドケアの実践（第Ⅰ報）	共	2020年3月31日	『学校危機とメンタルケア』第12巻、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	浅井鈴子・岩切昌宏・大岡由佳・瀧野揚三・中村有吾・毎原敏郎 学校における児童生徒の問題行動や課題は、増加傾向にある。それに対応する生徒指導として、トラウマインフォームドケアの視点が、今後必要となってくると考えられる。筆者らはある中学校に対して、トラウマインフォームドケアの視点を導入するために、事例相談と教職員研修を行った。その内容から、トラウマインフォームドケアの視点は、スムーズな生徒指導をもたらすだけでなく、教職員自身のストレスを減少させる可能性があることが示唆された。25～32頁
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 児童虐待防止医療ネットワーク事業の現状とこれから	共	2024年12月1日	日本子ども虐待防止医学会第30回学術集会在がわ大会	児童虐待への取り組みは虐待の発生予防、早期発見、早期対応、虐待を受けた子どもの保護、自立に向けた支援、保護者への支援など行われているが、医療機関のみで行うことはできず、多職種、多機関の関わりや連携が重要である。一方で、児童虐待に関する相談件数は年々増加しているため、児童虐待を地域全体で防止する体制の整備が重要である。このような状況のなか、平成24年度から各都道府県、指定都市の中核的な医療機関を中心として児童虐待対応のネットワークづくりや保健医療従事者の教育等を行い、児童虐待対応の向上を図ることを目的として「児童虐待防止医療ネットワーク事業」が開始された。本事業は医療機関において院内で虐待対応する組織を立ち上げて、院外の医療機関との連携、児童相談所、警察、検察、行政、学校など様々な多機関とのネットワーク構築により迅速な虐待対応、児童虐待を未然に防止することが期待できる。事業を開始して12年目となる現状で、事業を行ってきたことで得られたこと、新規参入に関すること、みえてきたこれからの課題などを検討する。
2. 医療機関における子ども虐待対応ソー	共	2024年11月30日	日本子ども虐待防止学会第30回学	小児・周産期医療の中核となる病院では、様々な課題を抱えた特定妊婦や被虐待児に直面する。命の危機に直面しているケースや重篤

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
シャルワーク			術集会かがわ大会	な後遺症が残るケースもある。医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）、医師、看護師、コメディカル、事務などで構成される児童虐待対応組織（以下、CPT）のコーディネーターを担う。さらに、病院の対外的な窓口として、あらゆる機関との多機関多職種連携のコーディネーターも担当する。特定妊婦の場合は、母子保健関係機関との連携を密にし、早期支援体制を確立する。この時期に上手く支援体制を確立できれば、その後に出生する子どもへの被虐待の発生を抑制することができる。被虐待児のケースにおけるMSWのコーディネーターとしての役割は、被虐待の再発防止に寄与するだけでなく、家族支援を行い発生要因への環境調整も行う。近年、CPTの取組は、養育支援体制加算をはじめ、精神科分野の養育支援体制加算の新設など、次々と評価されるようになってきている。
3. 救急隊員が児童虐待対応について専門性の向上を目指すための取り組み	共	2024年9月1日	日本子ども虐待医学会	救急搬送の逼迫した現場では、児童虐待を疑う余裕がないことも多い。そこで救急隊員を対象として児童虐待対応についての調査と研修を実施し、現状の把握と課題の抽出を行った。救急隊員の児童虐待対応を向上させるため、児童虐待研修を行い、研修の前後には、児童虐待の4つの分類や通告義務や多職種連携についての知識・認識・経験についてアンケート調査を行った。研修受講前後で統計学的な有意差は認められなかったが、アンケートの自由記述からは、救急隊員たちは児童虐待の対応に不安を持っていたことがわかった。また、「研修を受講したことで保護者理解につながった」「児童虐待の知識や認識が変化した」といった回答がみられた。今回の調査研究によって、実践に即した学習の機会を増やすことは、救急隊員の専門性向上だけでなく、医療機関との連携強化にも有用であると考えられた。また救急隊員から情報を受ける側にも課題があることが示唆された。
4. 兵庫県での多機関連携に関する当院の取り組み	共	2024年6月29日	日本子ども虐待医学会	子ども虐待への対応には児童相談所、警察、検察、医療の四機関連携が不可欠であり、連携強化に取り組んでいる。2007年から多機関・多職種で子どもの虐待防止と福祉向上を目的とした児童福祉勉強会を開催し、県内の児童虐待防止医療ネットワーク事業の地域拠点病院にも配信している。兵庫県・大阪府の児童相談所、警察、検察からの依頼を受け、院内専門医チームが合同で虐待事例に対応している。
5. 児童虐待対応を目的とした医療現場におけるソーシャルワークの専門性	単	2023年6月4日	日本子ども家庭福祉学会	2018年からは神戸地方検察庁で四者連絡協議会を実施し、検察・警察を対象とした虐待に関する研修会も定期的に開催している。兵庫県では職権で保護した子どもの家庭復帰等を検討する第三者委員会を設置しており、2016年から当院の医師も委員を務めている。今後の課題は、初期対応の均一化、実用的な事例相談対応、非死亡事例における事後検証会議の開催、被虐待児のためのワンストップ支援センターの設立が挙げられる。各機関の特性や優先事項を理解し、互いに尊重し合うことが円滑な連携に繋がるため、医学診察以外の活動も有効である。
6. 医療者和他機関を結ぶBEAMS～医療者以外にお届けする虐待医学の基礎知識～	共	2022年12月10日	日本子ども虐待防止学会大28回学術集会	医療機関で行われた実態調査の結果から、来院患者の虐待が見逃されており、医療職の虐待対応におけるリスクアセスメントと連携に指導の必要性が示唆された。そのため、医師や看護師とソーシャルワーカーが、虐待のリスクアセスメント及び連携というソーシャルワークの視点を共有することを目的に、虐待対応における医療職の専門性の構築を図る方策について検討を行った。
7. Child non-Death Review (CnDR) の勘	共	2019年7月27日	日本子ども虐待医学会	小川厚・仙田昌義・岡田邦之・小橋孝介・溝口史剛・石倉亜矢子・木下あゆみ・浅井鈴子 BEAMSでは、虐待を疑うべきキズあざや、子どもの様子、虐待を診断するために必要な検査などについて学び、地域で多職種への虐待対応のアドバイスや、他の医療者からの医学診断の相談にも対応できるようにする事を目指している。今回、このBEAMSの内容を、医療者以外の方にも知っていただき、どんな時に医療者を頼ればいいのか、また逆に、私たち医療者がどう連携すればいいかを模索するために企画を行った。
				毎原敏郎・浅井鈴子・川崎英史 小児の死亡事例検証ではしばしば指摘されているのは、関係機関の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
め				
8. 小児科臨床法医外来開設の報告～児童虐待対応での法医の役割～	共	2017年8月5日	日本子ども虐待医学会（ポスターセッション）	連携不足である。これは現場では常に生じている問題であるが、死亡に至らないと検証は行われなかった。今回は他機関で事後検証会議を開催したので、その意義について報告をした。 主田英之・浅井鈴子・井上美智子・毎原敏郎 小児科臨床法医外来開設の報告の中で、児童虐待対応での法医の役割について報告をした。一般的に法医は亡くなられている方の診察となるが、臨床法医外来では、身体的虐待の疑いのある方が、どのようにけがをしたのかを法医学の視点で診察を行い、一般診療とはまた違う視点から社会的診断情報と合わせて、外傷の経緯を診た。結果、臨床医と法医との間で明らかな意見の乖離は認めなかったが、外傷に関しては臨床医と法医という異なる視点で評価するシステムを構築することで、より適切な対応が可能となる考えられた。 川崎英史・浅井鈴子・毎原敏郎
9. 全身に原因不明の新旧混在する出欠班を認め基礎疾患の存在が疑われる2歳男児の一例	共	2017年8月5日	日本子ども虐待医学会	全身に原因不明の新旧混在する出欠班を認め、基礎疾患の存在が疑われる2歳男児の一例について、医学的な除外診断と福祉的な社会診断を行い、児童虐待による出欠班ではなく、疾患による出欠班と結論づけた。 川崎英史・小林喜実代・浅井鈴子・濱野由起・井上美智子・石原剛広・毎原敏郎
10. 当センター開院後1年間に救命救急センターを受診した小児外傷患者の実態調査	共	2016年7月23日	日本子ども虐待医学会	児童虐待（疑い含む）として対応の必要な子どもが「外傷」として救急外来を受診することが多いが、対応するスタッフの経験不足や時間の制約などで、事故予防や虐待対応の観点でかかわることが難しい。そのため専門部署を立ち上げているが、医療従事者から報告連絡が入らないなど児童虐待を疑う患者の把握には問題点があるため、症例を抽出して問題点と課題を検討した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2024年6月10日～現在	日本医療ソーシャルワーカー協会			
2. 2023年6月30日～現在	一般社団法人日本子ども虐待医学会 BEAMS委員会委員			
3. 2023年6月30日～現在	一般社団法人日本子ども虐待医学会 ケースレビュー委員会委員			
4. 2023年～現在	日本社会福祉学会会員			
5. 2023年～現在	日本子ども家庭福祉学会会員			
6. 2021年6月30日～現在	一般社団法人TICC理事			
7. 2021年6月～現在	日本子ども虐待防止学会			
8. 2016年4月1日2019年3月31日	尼崎市いじめ問題対策審議会委員			
9. 2016年～現在	日本子ども虐待医学会会員			